

月額購読料 **2,080円**
 電子版もセット(税込2,184円)
 一部売り:税込100円
 (販売店・コンビニなど)
 購読の申し込みは ☎0120-104-298
 右記ホームページからも申し込みます

常陽新聞

http://joyonews.jp

2014年(平成26年)第44号

3月24日(月)

平成26年2月1日創刊
 ©常陽新聞株式会社(日刊・月一土発行)

発行所 常陽新聞株式会社
 本社 茨城県つくば市吾妻3-10-13
 ☎029-869-9800代 FAX029-869-9836



家族でラベルを作り思い出の1本を完成させた=土浦市虫掛町の柴沼醤油醸造

日立化成・柴沼醤油・アサザ基金が協働

無農薬しょうゆ披露

商品化も視野

日立化成メモモ(田中一行社長、柴沼醤油醸造メモモ(柴沼秀篤社長)、NPO法人アサザ基金(飯島博代表理事)の三者は協働で、2年前から「しょうゆで自然とつながろうプロジェクト」を展開。休耕地を借りて無農薬の大豆を栽培、昨年3月に土浦市虫掛町の柴沼醤油の工場でしょうゆの仕込みをした。1年が経ち熟成したしょうゆのお披露目が23日に開かれ、参加したボランティアたちが自作のしょうゆを満喫した。(山本一暁)

霞ヶ浦活性化

同プロジェクトは牛久市島田町の休耕地6000平方メートルを借りて、醤油の原料となる大豆を作ることから始まった。日立化成の従業員や家族らがボランティアとして2年間で計8回、延べ600人が集まり、畑の土づくりから大豆の種まき、収穫

しょうゆの仕込み、蔵出しなどを実施してきた。無農薬の大豆にこだわり、虫による被害を抑えるためカエルやトノボを誘致するビオトープ池も作った。参加した斎藤孝さん(59)は「地域の活動に参加していることが新鮮だった。妻と参加したの

で、夫婦でしょうゆの話ができたこともよかった」と活動を振り返った。日立化成の50周年事業

同プロジェクトは日立化成が創立50周年記念事業として費用を負担した。アサザ基金は「耕作放棄地で無農薬

飯島代表は「地域の活性化を通して、霞ヶ浦再生の道筋を作りたい」と意欲を見せ、日立化成社員も耕作放棄地は今後も借り続ける予定」と話した。

活動はいったん終わった。お披露目会では、作ったしょうゆに自作のラベルを貼り、お昼はアサザ基金が栽培した米を使ったモチでしょうゆの味を確かめた。出来上がった1万2000本(一本100ミリ)は、小学生ボランティアやJAやさなど、協力団体に配る予定。



完成した「みんなのしょうゆ」=土浦市虫掛町の柴沼醤油醸造

日立化成 日立製作所の化学部門から独立し、1962年設立。事業は機能材料や自動車部品、蓄電池・デバイス・システム、電子部品など。下館事業所(筑西市小川)は霞ヶ浦の水を使っている。

「アキバ系文化」を紹介

つくばでコスプレ、メイド喫茶



東京・秋葉原の「アキバ系文化」を紹介する「つくば国際エクスチェンジ」が23日、つくば市岩崎の市ふれあいプラザで開かれ、ホ

また、アニメやゲームなどのキャラクターに扮(ふん)し、思いのこすプレイベントをまたったコスプレイベントが参加してのコスプレ撮影会や中華コスプレ大会の予選会があった。屋外ではキャラクター

コスプレ衣装を着て来客を迎えるメイド喫茶の女性1つくば市岩崎の市ふれあいプラザ

3月末日まで! 新創刊記念 **特別キャンペーン**

6か月以上購読契約をしていたいただいた方に、常陽新聞電子版紙面が楽しめるタブレット端末を無償でお貸しします!

※当キャンペーンは、弊社の都合により予告なく変更、又は早期終了する場合がございます。

弊紙購読申込 **先着 1,000名** 名様

いますぐお申込みを!

申込期限 平成26年 **3月末日**

月額購読料 **2,080円**

0120-104-298
 029-869-9836

購読申込ページ
<http://joyonews.jp/sub.html>